シ ラ バ ス 情 報

授業方法	講義　・　実験　・　(実習)
系　　列	実　習
科 目 名	シャシ整備
必修・選択	(必修科目)　・　選択科目
対象学科	一級自動車整備科・二級自動車整備科
年次学期・曜日・時限	1年後期　・　木～金曜日　・　１時限～８時限
時 限 数	９１．２時限（期末試験を除く）
担当教員名	友川　強史・廣石　泰大・(他１名)
実務経験	(有)　・　無 国土交通省に認証された事業場における保守・点検・分解・組立など自動車整備士としての経験を活かし、整備を行う上で必要となるシャシの構造や調整作業についての実習を実施する。
授業の目的	自動車整備において必要となる制動装置の構造、機能、点検及び調整作業を実施する。 自動車整備において必要となる緩衝装置、動力伝達装置及び制動装置の構造、機能、点検及び調整作業を実施する。
テキスト	実習テキスト

授　業　計　画

授業回数	テーマ	内容・方法等	使用テキスト範囲
第１回	制動装置の構造、構成部品確認１	ブレーキ・ペダルを踏んでから各車輪にブレーキが掛かるまでの仕組みを学ぶ	実習テキスト（ブレーキ）
第２回	制動装置の構造、構成部品確認２	真空式制動倍力装置を分解し、内部構造、作動の確認実施	実習テキスト（ブレーキ）
第３回	ディスク・ブレーキ分解、組立、構造確認	ディスク・ブレーキの構造確認、分解、組立作業要領の習得	実習テキスト（ディスク）
第４回	ドラム・ブレーキ分解、組立、構造確認	ドラム・ブレーキの構造確認、分解、組立作業要領の習得	実習テキスト（ドラム）
第５回	タンデム・マスタ・シリンダの分解、組立、構造確認	タンデム・マスタ・シリンダの構造、分解、組立、エア抜き作業要領の習得	実習テキスト（マスタ）
第６回	制動装置の点検整備作業１	各種制動装置の残厚、ロータ振れ測定、フルード交換、エア抜き作業要領習得	実習テキスト(ブレーキ点検)
	ステップ試験（中間試験）	第1回～第6回までの授業内容に関する実技試験	別途課題
第７回	ホイール・アライメント測定、調整１	キャンバ・キャスタ・キングピン・ゲージの取り扱い方の習得	実習テキスト(アライメント)
第８回	ホイール・アライメント測定、調整２	ホイール・アライメント及びトーの測定、調整要領の習得	実習テキスト(アライメント)
第９回	ウィンド・レギュレータ脱着、構造確認	ウィンド・レギュレータ脱着作業に関わる注意事項及び挟み込み防止機構の確認	実習テキスト（ウィンド）

第 １０ 回	操舵装置脱着、トー調整	操舵装置の脱着作業に関わる注意事項の確認と調整要領の習得	実習テキスト(ステアリング)
第 １１ 回	ドライブ・シャフト脱着、分解、組立	ドライブ・シャフト・ブーツの交換作業に関わる注意事項の確認	実習テキスト（ドラシャ）
第 １２ 回	制動装置の点検整備作業２	第１回～第６回と同様の作業を繰り返し実施することで作業の習熟を図る	
	ステップ試験（中間試験）	第7回～第12回までの授業内容に関する実技試験	別途課題
	期末試験	第1回～第12回までの授業内容に関する実技試験	
到達目標	自動車整備において必要となる制動装置の構造、機能、点検及び調整作業を理解する。 自動車整備において必要となる緩衝装置、動力伝達装置及び制動装置の構造、機能、点検及び調整作業を理解する。		
成績評価方法	平常点（小テスト、レポートやノートの提出とその評価、出席及び授業態度）、ステップ試験（中間試験）並びに期末試験を合算して行う。		
定期試験受験資格	開講された全時限に出席し、レポート・ノートの提出が完了している者。 欠席した時限がある場合は、補講も完了している者。		
成績評価基準	成績評価は、期末試験の点数が40点以上を満足した上で、100点を満点とする整数について、次の割合で行う。 中間試験の点数　30％ 期末試験の点数　40％ 平常点　30％ 上記の割合によって学期末の評点が60点以上である場合、以下によって評価する。 60～69点＝可、70～79点＝良、80～89点＝優、90点以上＝秀 60点未満の場合、再試験を行い、試験点のみで60点以上のとき履修を認定し、成績は60点＝可とする。		
成績評価できない場合の基準	全実習を終了時点の出席率が５０％を満たしていない場合、 又は、成績評価が６０点未満の場合。		